

「地球にやさしい2016年東京五輪で

友好親善を通じて自分を磨く」

大阪市長市岡小学校5年

知念 勇樹



ぼくは、2016年・オリンピックを東京で行ってほしいとおもいます。その理由は、外国の人たちと友だちになり、友好親善のチャンスになるきっかけができるからです。

オリンピック選手ならば、ライバルであり、友だちでもある人ができて、切磋琢磨しながら強くなり、仲を深めていくことができる。たとえば、競泳の北島康介とハセンは、いろいろな大会を通じて知り合い、友だちでもあり、ライバルでもある。二人は、切磋琢磨しながら、記録をのばそうとしている。

ボランティア活動なら、道案内や通訳、手伝いをする
ことによって、観客などのいろいろな人たちと仲を深め
ていくことができる。

そのほか、日本の今の状況を知ることや、国際イベン
トなどの世界の人たちとの交流も友好親善のチャンスに
なるきっかけができればと思います。

世界には、スポーツができる人と、スポーツができな
い人がいます。特に、さばく化しているアフリカ大陸は、
スポーツがあまりできません。その一番の原因は、地球
温暖化です。海面上昇、平均気温上昇などで、いろいろ
なやまされています。2004年のアテネ大会のビーチ
バレー会場に、海面上昇の水が流れてきたそうです。こ
のままでは、スポーツができなくなってしまう。そ
こで、屋上緑化や太陽光発電などで、二酸化炭素の排出
を削減しようとしている人がいるけれど、木を切ったり、
ごみをもやしたりして、二酸化炭素がふえている。地球
温暖化を防ぐには、冷ぼうは28℃・暖房は20℃に設定す
る。そのほかには、ごみを多くださないこと、花やしば
ふを植えること、節電・節水を心がければ、二酸化炭素
の量をへらせると思います。ぼくは、昨年冬に東京五
輪のこと、1964年のときのこと、2016年が目指
すものをいろいろ調べました。そうしたら、2016年

は地球環境を考えたオリンピックを目指していることを知りました。これはとても大切なことだと思えます。そしてこういった活動を通じて日本が世界のお手本になったらいいなと思えます。

ぼくも節水や節電などは心がけています。100年後も200年後もスポーツができる環境であつたらいいと思えます。これからもスポーツを楽しんでいきたい。あと、切磋琢磨しながら、記録をのばして行って、2016年の東京五輪に出たい。